

## 対話結果

### 「資料8 習志野市新庁舎等基本設計 設計図書編」に関する対話事項

No	頁	区分	タイトル	提案	提案の 適否	対話結果
図-2	-	意匠図	柱仕上の変更②	丸柱(CFT柱)+耐火塗料を、ボックス鋼(550角)とし、耐火ボードt15+EP塗装とする。 ⇒耐久性向上による長寿命化、メンテナンス・更新性の向上、LCC修繕更新費減。	×	独立柱部分の鉄骨柱600φをすべて角型鋼管550□へ変更することは、来庁者が往来するスペースや窓回り部分で活動する市民の安全性を考慮していることや柱の仕上損傷等のリスクがあるため、不適とする。
図-4	CA-01、15	意匠図	免震層下部(マツスラブ)部分の水槽位置について	山留を浅くして施工中の安全性を高める為、外周部に面する水槽を建物内側へ2スパン移動したい。	○	適とする。ただし、雨水ろ過装置への接続を考慮すること。
図-8	CA-03	意匠図	守衛室、宿直室、中央監視室のプランニングについて	宿直室と中央監視室の位置を入れ替え、守衛室と中央監視室を一体化 ⇒夜間等の管理要員の減による管理人件費削減。	×	宿直室と中央監視室の業務内容が異なるため、不適とする。
図-9	CA-03	意匠図	Exp.J金物を削減	北側GF搬入ヤード出入口を変更することで、Exp.J金物を削減します。	×	必要諸室面積が確保できないため、不適とする。
図-10	CA-03	意匠図	市庁舎南西部風除前Exp.j	原案:Exp.Jサイズ 12m(南)+6m(西) 変更案:7m(南)+6m(西)に縮小 理由:コスト・性能のバランス	×	基本設計にて想定した所定の性能を満たさないため、不適とする。
図-11	CA-03 CA-04	意匠図	GF-1F階段	GF-1Fへ2本の内部階段を通すことにより、GFと1Fを結ぶ西側の階段を中止します。	×	必要諸室面積が確保できないため、不適とする。
図-14	CA-04	意匠図	1階市民レストラン西面跳ね出しについて	A通り4～6間跳ね出し部中止。(内部吹抜け南側に同等の面積を振替え屋内化する。) ⇒外壁清掃性の向上、ガラス面積減。	×	跳ね出し部を内部化し同等面積以上確保することは適とするが、市民レストラン北側への増床は、不適とする。
図-15	CA-04	意匠図	ウェルカムルーフ庇範囲について	入口回りのみとし、長さ15メートル分縮小。 ⇒メンテナンス費用削減、LCC修繕更新費減。	×	車寄せの機能が十分に確保できないため、不適とする。
図-16	CA-04	意匠図	搬入ヤード側庇範囲について	入口回りのみとし、長さ19メートル分縮小。 ⇒メンテナンス費用削減、LCC修繕更新費減。	×	車寄せの機能が十分に確保できないため、不適とする。

「資料8 習志野市新庁舎等基本設計 設計図書編」に関する対話事項

No	頁	区分	タイトル	提案	提案の 適否	対話結果
図-18	CA-04	意匠図	1階A通西側階段の外 部化	原案:屋内階段(全面ガラスカーテンウォール) 変更案:屋外階段(屋根有り)、GFに風除室 新設 理由:機能同等、メンテナンス性の向上、コ スト・性能のバランス	×	利用者の屋内でのフロア移動ができなくなるため、不 適とする。
図-19	CA-04	意匠図	市庁舎東側 ウェルカムルー フ	原案:出寸法 10m 巾33m 変更案:出寸法 10m 巾16.5m 理由:コスト・性能のバランス	×	車寄せ部分の雨がかりをカバーできないため、不適と する。
図-20	CA-04	意匠図	市庁舎東面 3～6通り Exp.J	原案:見付け寸法 13m 変更案:5m 理由:コスト・性能のバランス	×	基本設計にて想定した所定の性能を満たさないため、 不適とする。
図-21	CA-04 ～ 09	意匠図	市庁舎 北面 バルコ ニー	原案:2階から各階 北面バルコニー+FIX窓 変更案:北面バルコニー中止+縦軸回転窓 理由:コスト・性能のバランス、メンテナンス性 能維持	×	バルコニーの中止については、外壁面のメンテナンス 性の低下につながるため、不適とする。
図-23	CA-05 ～ 07	意匠図	GF-1F 下屋部分の縮 小	下屋部分のスペースを効率的に配置するこ とで下屋部分を縮小します。	×	必要諸室面積が確保できないため、不適とする。
図-24	CA-05 09,10	意匠図	2、6、R階 屋上押さえ コンについて	屋上押さえコンを露出防水に変更。(メンテ ルートのみ歩行用PCブロック設置) ⇒防水層損傷箇所確認の容易化。	×	基本設計にて想定した所定の性能を満たさないため、 不適とする。
図-25	CA-05 CA-07	意匠図	OAフロア範囲縮小	2階ロビー及び4階待合ロビーのOAフロアを 中止する。 ⇒必要機能に応じた仕様。	×	将来のレイアウト変更に対応できないため、不適とす る。
図-26	CA-05 CA-14	意匠図	市庁舎2F北面庇	原案:見付け寸法 24m 変更案:4m 理由:コスト・性能のバランス、メンテナンス性 能維持	×	車寄せ部分の雨がかりをカバーできないため、不適と する。
図-27	CA-07	意匠図	共用部分の効率化	13-14間の短い柱スパンの共用部分を調整 し、窓側通路の合理化による面積縮減を行 います。	×	平面計画へ与える影響が確認できていないこと並び に必要諸室が確保できないため、不適とする。

「資料8 習志野市新庁舎等基本設計 設計図書編」に関する対話事項

No	頁	区分	タイトル	提案	提案の 適否	対話結果
図-28	CA-07	意匠図	空調機械室について	窓通路の合理化と共に、各階空調機会室3箇所を4箇所へ分散配置します。	×	市が求める諸室の平面計画が実現できない可能性があるため、不適とする。
図-29	CA-08	意匠図	議場の柱	議場の位置を移動し、岡立ち柱をなくします。	×	議会部門の動線計画との整合が取れないため、不適とする。
図-30	CA-09	意匠図	屋上緑化範囲、仕様変更について	屋上緑化面積の縮減及びユニット緑化システム(独自技術)の採用(緑化面積は地上で確保) ⇒メンテナンス向上、市民が直接触れられる緑化範囲の拡大、必要機能に応じた仕様	×	緑地面積の削減は基本設計にて想定した所定の性能を満たさないため、不適とする。
図-31	CA-09	意匠図	屋上緑化について	屋上緑化の中止及び緑化部スラブ段差中止。(緑化面積は地上で確保) ⇒メンテナンス向上、市民が直接触れられる緑化範囲の増、LCC修繕更新費減。	×	基本設計にて想定した所定の性能を満たさないため、不適とする。
図-32	CA-09	意匠図	議場上部ガラスについて	②、③間の吹抜に面するガラス(東側、西側)の中止。⇒議場側からの高所ガラス清掃手間削減。	×	基本設計にて想定した所定の性能を満たさないため、不適とする。
図-34	CA-09	意匠図	市庁舎6階B通り側4-6通り間張り出し部について	構造的なバランスをよくする為に、張りだし部を縮小して、左右対称としたい。	×	空調機械室の統合を前提とした提案であり、空調機械室の統合が不適であるため、6階B通り側4-6通り張り出し部の縮小についての提案は、不適とする。
図-35	CA-11	意匠図	西面階段部外装ガラスについて	外装ガラス中止し、踊場両端のみ明り取りのスリット窓設置、他はALCとする。 ⇒ガラス面積減による清掃費削減。	×	管理運営上、人の往来が分かるようにガラスとしているため、不適とする。
図-36	CA-11	意匠図	市庁舎6F外壁	原案:押出成形セメント板 変更案:ALC吹付タイル 理由:断熱性能UP、コスト・性能のバランス	×	基本設計にて想定した所定の性能を満たさないため、不適とする。

「資料8 習志野市新庁舎等基本設計 設計図書編」に関する対話事項

No	頁	区分	タイトル	提案	提案の 適否	対話結果
図-38	CA11～13	意匠図	GF、1F外装サッシ仕様及びガラス範囲について	スチールカーテンウォール+フッ素樹脂塗装を ①アルミサッシB2へ変更及びガラス面の1/2(FIX部)をALCに変更。 ②アルミサッシ電解二次着色へ変更及びガラス面の1/2(FIX部)をALCに変更。 ⇒ガラス面積減による清掃費削減、外観統一感の向上。	×	自然採光が半減することから不適とする。
図-41	CA-11 ～ 13	意匠図	R階パラペット上部	笠木の角型形状アルミパネル曲げ加工を通常のかぶせ型笠木に変更します。	×	庇の出が無くなっており、風雨に対する外壁の汚れ等の耐候性能が低下するため、不適とする。
図-43	CA- 11 ～ 13	意匠図	設備機器置場目隠し壁の高さ	原案:高さ4.5m 変更案:高さ3.5m 理由:コスト・性能のバランス	×	基本設計にて想定した所定の性能を満たさないため、不適とする。
図-44	CA-11 ～ 14	意匠図	外装材の仕様変更について	押出成形セメント板+フッ素樹脂塗装光触媒をALC+吹付タイルに変更。 ⇒断熱性能向上。	×	基本設計にて想定した所定の性能を満たさないため、不適とする。
図-45	CA-11 ～ 14	意匠図	外装アルミサッシ仕様の変更	アルミサッシB2をアルミサッシ電解二次着色に変更。 ⇒必要機能に応じた仕様。	×	基本設計にて想定した所定の性能を満たさないため、不適とする。
図-46	CA-11 ～ 14	意匠図	1階上部庇について	1階上部庇(2階床レベル庇)を中止 ⇒LCC修繕更新費減、必要機能に応じた仕様。	×	基本設計にて想定した所定の性能を満たさないため、不適とする。
図-47	CA-11 ～ 14	意匠図	アルミ笠木 B-2種	アルマイト ⇒LCC修繕更新費減、必要機能に応じた仕様。	×	基本設計にて想定した所定の性能を満たさないため、不適とする。
図-49	CA-11 ～ 14	意匠図	市庁舎GF,1Fカーテンウォールについて	スチールカーテンウォール フッ素をアルミカーテンウォールB-2に変更したい。	○	アルミカーテンウォールへの変更は、適とする。ただし、塗装は、フッ素樹脂塗装と同等以上の耐候性を確保すること。また、耐風梁を設置する場合は埃対策を考慮すること。

「資料8 習志野市新庁舎等基本設計 設計図書編」に関する対話事項

No	頁	区分	タイトル	提案	提案の 適否	対話結果
図-51	CA-11 ～ 14、21	意匠図	市庁舎外部アルミルー バー手摺について	アルミルーバー手摺をスチールFBに変更し たい。	×	不適とする。ただし、形状及び耐候性が基本設計と同 等以上であれば、変更は適とする。
図-54	CA- 11 ～ 21	意匠図	6階 階高(①-⑥通)	原案:6階 階高4.5m 変更案:6階 階高5.0m 理由:設備ダクトスペースの確保の為に階高 UP必要	○	適とする。ただし、西側の実日影に影響がないことを 確認すること。
図-59	CA-11 CA-13 CA-14	意匠図	屋上設備機器置場目 隠しルーバーについて	屋上設備機器置場目隠しルーバーの中止。 ⇒必要機能に応じた仕様。	×	基本設計にて想定した所定の性能を満たさないため、 不適とする。
図-60	CA-12 CA-16	意匠図	6階カーテンウォールの 開口部の効率化	6階展望ギャラリーのカーテンウォールサイズ を内部空間の高さに合わせます。	×	外壁面の維持管理面で性能低下があるため、不適と する。
図-62	CA-14	意匠図	外壁仕上げ	押出し成型セメント板フッ素樹脂塗装光触媒 を低汚染形仕様に変更します。	×	基本設計にて想定した所定の性能を満たさないため、 不適とする。
図-63	CA-14	意匠図	北側庇の撤去	全階について北側外壁設置の庇を中止しま す。北側の開口部が少なく、日影の影響が 少ないため。	×	風雨に対する外壁の汚れ等の耐候性能が低下するた め、不適とする。
図-64	CA-14	意匠図	市庁舎議場 天井高	原案:CH=6800 変更案:CH=5950とする 理由:非特定天井とする、コスト・性能のバラ ンス	×	要求水準書にて規定した所定の性能を満たさないた め、不適とする。
図-66	CA- 15 ～ 21	意匠図	庇の出寸法	原案:庇の出寸法=2250mm(壁芯から) 変更案:寸法=1750mm(壁芯から) 理由:コスト・性能のバランス、ほぼ外観も変 わらず	×	庇の出を抑制することにより、日射が外壁に当たり外 壁の耐候性が低下するため、不適とする。

「資料8 習志野市新庁舎等基本設計 設計図書編」に関する対話事項

No	頁	区分	タイトル	提案	提案の 適否	対話結果
図-67	CA- 15 ～ 21	意匠図	メンテナンスバルコ ニーの形状	原案:アルミルーバー手摺 スラブ跳ね出し900mm 変更案:アルミルーバー手摺の中止 スラブ跳ね出し500mm +メンテナンスパイプ設置 理由:コスト・性能のバランス、ほぼ外観も変 わらず	×	バルコニーの中止については、外壁面のメンテナンス 性の低下につながるため、不適とする。
図-68	CA- 15 ～ 21	意匠図	RFL庇形状パラペット	原案:庇状アルミパネルパラペット 変更案:既製型材アルミ笠木(庇形状中止) 理由:コスト・性能のバランス	×	基本設計にて想定した所定の性能を満たさないため、 不適とする。
図-70	CA-16	意匠図	東側山留め構造壁	東側のオープンカットを残し山留め壁の高さ を2.5mとします。	×	きらっとひろばの面積が小さくなるため、不適とする。
図-71	CA-16、17	意匠図	市庁舎GF特定天井に ついて	万一の脱落に備えてエントランスホール・ロ ビーの特定天井を超軽量な一般天井に変 更又は取止めとしたい。	×	要求水準書にて規定した所定の性能を満たさないた め、不適とする。
図-72	CA-19	意匠図	市庁舎屋上 丸環	原案:丸環あり 変更案:丸環中止(設備架台、化粧ルー バー下地鉄骨付近のみ) 理由:LCCコスト削減	×	基本設計にて想定した所定の性能を満たさないため、 不適とする。
図-75	CA-19	意匠図	内部柱仕上仕様見直 し-3	原案:建築基準法通りの耐火被覆 変更案:耐火性能検証法(ルートC)による耐 火被覆見直し 理由:メンテナンス性の向上コスト・性能のバ ランス	×	新庁舎供用後の改修を行う度に耐火性能検証を行う 必要があるため、不適とする。
図-85	CA-21	意匠図	各階外周部手摺ルー バーピッチ及び仕上げ について	ルーバーピッチ@61.25mmを@245mm(4倍)に 変更し、粉体塗装を電解二次着色に変更。 ⇒必要機能に応じた仕様、LCC修繕更新費 減	×	基本設計にて想定した所定の性能を満たさないため、 不適とする。

「資料8 習志野市新庁舎等基本設計 設計図書編」に関する対話事項

No	頁	区分	タイトル	提案	提案の 適否	対話結果
図-86	CA-21	意匠図	外周各階軒天先端部 アルミパネル	軒先アルミパネルを中止。水切り金物のみを 設け、他はケイカル+木目調シートを延長す る。 ⇒LCC修繕更新費減(メンテナンス対象種類 の削減)	×	軒裏の防水性能が、基本設計にて想定した所定の性 能を満たさないため、不適とする。
図-87	CA-21	意匠図	RFLパラペット部	笠木奥行を半減 ⇒LCC修繕更新費減、必要機能に応じた仕 様。	×	基本設計にて想定した所定の性能を満たさないため、 不適とする。
図-88	CA-21	意匠図	屋根・庇 アルミ-亜鉛合 金メッキ鋼板/フッ素樹 脂塗装	カラーガルバリウム鋼板/タテハセ葺き ⇒LCC修繕更新費減、必要機能に応じた仕 様。	×	基本設計にて想定した所定の性能を満たさないため、 不適とする。
図-89	CA-21	意匠図	庇/軒先 アルミパネル t3.0/粉体塗装	アルミパネルt2.0 ⇒LCC修繕更新費減、必要機能に応じた仕 様。	×	基本設計にて想定した所定の性能を満たさないため、 不適とする。
図-90	CA-21	意匠図	庇/軒先 アルミパネル t3.0/粉体塗装	電解二次着色 ⇒LCC修繕更新費減、必要機能に応じた仕 様。	×	基本設計にて想定した所定の性能を満たさないため、 不適とする。
図-92	CA-21	意匠図	サービスバルコニー手 摺	バルコニーのアルミルーバー仕上げを粉体 塗装から2次電解着色とします。	×	基本設計にて想定した所定の性能を満たさないため、 不適とする。
図-93	CA-21	意匠図	サービスバルコニー手 摺	バルコニーのアルミルーバー手摺をスチー ルFB手摺に仕様変更します。	×	不適とする。ただし、形状及び耐候性が基本設計と同 等以上であれば、変更は適とする。
図-94	CA-21	意匠図	庇の出を効果的な寸 法とする	庇の出による採光、温熱環境をシミュレ ーションで検証し、バランスのとれた執務環境と します。	×	ブラインド併用により同等の性能を確保する提案は、 同一性能と認められないため、不適とする。
図-95	CA-21	意匠図	庇とサービスバルコ ニー	庇形状屋根型を水平アルミルーバーに変更 します。	×	上を向いたアルミルーバーは、鳥の糞害などに対して メンテナンス方法が合理的でないと考えられるため、 不適とする。
図-96	CA-21	意匠図	庇とサービスバルコ ニー	庇とサービスバルコニーを構造的に一体とし ます。	×	庇面のレベルを下げることや手摺を無くすことは、外 壁面のメンテナンス性の低下につながるため、不適と する。

「資料8 習志野市新庁舎等基本設計 設計図書編」に関する対話事項

No	頁	区分	タイトル	提案	提案の 適否	対話結果
図-98	CA-21	意匠図	市庁舎外観計画について	原案: 庁舎外周 バルコニー手摺アルミルーバー(横桟約@60) 変更案: アルミルーバー(横桟約@120) 理由: コスト・性能のバランス	×	バルコニー利用時の安全性が低下するため、不適とする。
図-99	CA-21	意匠図	建物周囲植栽帯+手摺	原案: 免震クリアランス部の排水側溝に植栽帯+手摺 変更案: 側溝内は砂利詰め+手摺中止 理由: メンテナンス性の向上コスト・性能のバランス	×	基本設計にて想定している所定の性能を満たさないことおよび安全性が確保できないため、不適とする。
図-109	CS-04 07,20	～ 構造図	鉄骨小梁の合理化	鉄骨小梁の合理化のために、合成梁の検討を行い、表サイズ(H-400×200×8×13、H-600×200×11×17)から裏サイズ(H-396×199×7×11、H-596×199×10×15)に変更したい。	×	余裕度の縮小による性能の低下が想定されるため、不適とする。
図-110	CS-04 07,20	～ 構造図	スラブの合理化	スラブS1の合理化のために、検討を行い、長辺方向配筋をD13@200ダブルからD10@200ダブルに変更したい。	×	基本設計にて想定した所定の性能を満たさないため、不適とする。
図-114	CS-16	構造図	擁壁の合理化	擁壁の合理化のために、検討を行い、配筋はそのまま、壁厚をt=1500mm～400mmからt=1300mm～400mmに変更したい。	×	余裕度の縮小による性能の低下が想定されるため、不適とする。
図-116	DA-01	意匠図	土木作業員詰所・立体駐車場の配置	土木作業員詰所・立体駐車場の位置を南側に移動し、擁壁を低減します。	×	車両動線に支障をきたし、市庁舎へのアクセスを阻害するため、不適とする。
図-117	DA-02	意匠図	土木作業員詰所外装仕上変更①	外装リブ付押出成形セメント板+フッ素樹脂塗装軽をALC+吹付タイルに変更。 ⇒断熱性能向上、LCC修繕更新費減。	×	基本設計にて想定した所定の性能を満たさないため、不適とする。
図-118	DA-02	意匠図	土木作業員詰所外装仕上変更②	外装リブ付押出成形セメント板+フッ素樹脂塗装を金属製外装材に変更 ⇒断熱性能向上、LCC修繕更新費減。	×	基本設計にて想定した所定の性能を満たさないため、不適とする。



「資料8 習志野市新庁舎等基本設計 設計図書編」に関する対話事項

No	頁	区分	タイトル	提案	提案の 適否	対話結果
図-119	DA-02	意匠図	外装リブ付押出成形セメント板フッ素樹脂塗装	②リブ付を中止、平板とする(フッ素樹脂塗装) ⇒LCC修繕更新費減、必要機能に応じた仕様。	×	基本設計にて想定した所定の性能を満たさないため、不適とする。
図-120	DS-01	構造図	土木作業員詰所地盤改良の合理化	地盤改良の合理化のために、柱状地盤改良(支持力用)+1階床土間コンクリートを浅層混合改良(改良厚さ1m)+べた基礎(厚さ500mm)に変更したい。	×	液状化対策が実施されておらず、基本設計にて想定した所定の性能を満たさない。また、1mの改良厚では支持層について不確定要素があるため、不適とする。
図-122	SI-04	意匠図	市庁舎GF床レベルについて	洪水被害の危険性の更なる軽減と掘削土量の削減の為、GF床レベルを500上げたい。	×	道路からGFレベルへのアプローチ勾配が急であるため、不適とする。
図-123	SI-04	意匠図	外構レベルについて	①広場を起伏のある変化を持たせたデザインとする為と合わせて搬出土量削減の為に、きらっとひろばに築山を設置したい。 ②洪水被害の危険性の更なる軽減と掘削土量の削減の為、消防庁舎・きらっとひろば周囲レベル(12.0～13.0)を前面道路レベル(13.0)より1m程度上げた14.0としたい。	×	道路からのアプローチの車路勾配が急であり、来庁者に不便を強いること、及びⅡ期工事で整備する消防庁舎へのアプローチなどの使い勝手が悪くなることが懸念されるため、不適とする。
図-124	SI-04 CA-16～18	意匠図	市庁舎東側擁壁について	GFの各居室に採光をとり、自然排煙も無理なく取れるように、擁壁を取止めオープンカット(自然法)としたい。	×	きらっとひろばの面積が小さくなるため、不適とする。
図-126	杭伏図杭リスト	構造図	杭種別について	場所打ち杭(杭頭鋼管巻)を既製杭(高支持力杭)に変更したい。	○	適とする。
図-128	部材リスト	構造図	免震層大梁の構造種別について	工期削減の為、SRC造を鉄骨造に変更したい。	○	適とする。ただし、振動に留意すること。
図-129	部材リスト	構造図	柱形状について	「円形鋼管(φ600)」を掲示物設置の利便性などから「角形鋼管(□550)」に変更したい。(エントランス部等を除く)	○	適とする。ただし、GF及び1Fの来庁者が往来するスペース及び窓周り部分の変更は安全性を考慮しているため認めない。

「資料8 習志野市新庁舎等基本設計 設計図書編」に関する対話事項

No	頁	区分	タイトル	提案	提案の 適否	対話結果
図-131	部材リスト	構造図	スラブコンクリート強度について	地上部スラブコンクリート強度「 $F_c=30\text{N/mm}^2$ 以上」を「 $F_c=24\text{N/mm}^2$ 以上」に変更したい。	×	基本設計にて想定した所定の性能を満たさないため、不適とする。
図-134	部材リスト	構造図	鉄骨造大梁材質について	「SN490B」を「SM490A」に変更したい。	×	基本設計にて想定した所定の性能を満たさないため、不適とする。
図-135	部材リスト	構造図	鉄骨造小梁断面について	合成梁として設計することにより、裏サイズを採用したい。 (例) H-400x200x8x13→H-396x199x7x11	×	振動と遮音性能に問題があると考えられるため、不適とする。
図-136	部材リスト	構造図	型枠デッキスラブの変更	「捨型枠デッキスラブ」を「合成デッキスラブ」に変更したい。	○	適とする。ただし、たわみと遮音性能は基本設計と同等以上とすること。また、埋設配管の有無、コンクリート打設に問題ないことを確認すること。
図-137	免震装置配置図	構造図	免震装置について	「天然ゴム系積層ゴム＋鉛プラグ入り積層ゴム＋弾性滑り支承」を長周期地震動に対してエネルギー吸収能力を高めるために「天然ゴム系積層ゴム＋弾性滑り支承＋オイルダンパー」に変更したい。	○	適とする。
図-141		構造図	柱形状及び耐火被覆材について-3	鉄骨柱600φをすべて角型鋼管550□へ変更したい。 耐火塗料は乾式耐火被覆材へ変更したい。 また壁付柱は、半湿式吹付耐火材としたい。 ・柱型へのコンセント、排煙オペレーター等の設置が可能となり利便性が向上。 ・台車などによる柱型への損傷の補修費用が、耐火塗料仕上げに比べ軽減。	×	独立柱部分の鉄骨柱600φをすべて角型鋼管550□へ変更することは、来庁者が往来するスペースや窓回り部分で活動する市民の安全性を考慮していることや柱の仕上損傷等のリスクがあるため、不適とする。
図-147		構造図	基礎構造について	土圧壁断面厚を、必要最小限の厚さに変更したい。	×	具体的な提案が無いため、不適とする。